ISSN 2759-0542

京都外国語大学
ラテンアメリカ研究センター
紀要 2025

‹論文›

テワンテペック地峡部におけるメシーカの進出と領域編成
…… 小林致広 1

ブラジル北東部文学と抵抗する女性像
— グラシリアノ・ハーモス著『サンベルナルド』から —
…… 岐部雅之 23

‹研究ノート›

戦前日本におけるモンロー主義をめぐる米州関係に関する文献の紹介
— モンロー主義から米州主義へ —
…… 辻豊治 43

中米地域におけるコミュニティ・ミュージアムと博物館政策に関する研究
— ニカラグアとコスタリカの比較を通じて —
…… 杉岡明日香 59

‹調査研究報告›

Daños al Patrimonio Arqueológico y su Tratamiento Sancionador:
análisis del DS N°005-2019-MC
…… 大谷博則、ホセアントニオ・オノフレ・マイタ 77

‹書評›

A・G・ホプキンズ著(管英輝・森丈夫・中嶋啓雄・上英明 訳)
『アメリカ帝国—グローバル・ヒストリー』
…… 牛島万 101

Vol. 25

〈研究ノート〉

中米地域におけるコミュニティ・ミュージアムと博物館政策に関する研究

―― ニカラグアとコスタリカの比較を通じて ――

杉　岡　明日香*

キーワード

コミュニティ・ミュージアム、文化政策、住民主体、ニカラグア、コスタリカ

Resumen

Este estudio tesis se enfoca en los museos comunitarios que promueven la participación de la comunidad, partiendo de la idea de que los museos cada vez necesitan más dicha participación. En Centroamérica se pueden encontrar casos de museos comunitarios basados en la participación activa de la comunidad, de modo que se analizan especialmente los museos comunitarios nicaragüenses y costarricenses. En el caso de Nicaragua y a partir de la encuesta realizada al personal de los museos comunitarios, se comprueba que la colaboración con las escuelas de la comunidad y la realización de talleres que abordan la historia y la cultura comunitarias son fundamentales para la "participación de la comunidad". En el caso de Costa Rica, a partir de la entrevista realizada al personal del Programa de Museos Regionales y Comunitarios del Museo Nacional de Costa Rica, se concluye que la sostenibilidad de los museos comunitarios no depende únicamente del apoyo público, sino que también requiere la participación y la autogestión de la comunidad. Además, en el caso específico del Museo Comunitario de Curré, en Costa Rica, se advierten elementos similares a los de Nicaragua. El objetivo de este trabajo es investigar los museos comunitarios de Costa Rica y comparar el resultado con los museos nicaragüenses para obtener conclusiones sobre la esencia de la "participación de la comunidad" en los mismos.

1　はじめに

1.1　研究の背景

近年、ミュージアムをめぐる状況は絶えず変化を続けている。2022 年 8 月には、国際博物館会議（Internacional Council of Museum、以下 ICOM）がプラハ大会において新たな博物館の定義[1)]を採択した。

そこでは、博物館は有形・無形の資料を収集し展示等を行う施設であることに加えて、「多様性と持続可能性」を育む場であり、「倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュ

＊　NPO 法人フィールドミュージアム文化研究所

ニティの参加とともに活動し、教育、愉しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する」場であると定められた[2)]。

これと時を同じくして日本の博物館法も改正されたが、そこでは「歴史資料や美術品や自然史資料、動植物など、資料の種類に関わらず、資料の収集・保管（育成）、展示、資料についての調査研究、教育普及活動やレクリエーションに資するために必要な事業等」の実施が博物館の中心的な目的として掲げられている。また、この改正では、第3条の第3項において博物館が教育やまちづくり、観光、福祉、国際交流などの地域の多様な主体と連携を図り、地域の活力向上に寄与するよう努めることが明記された。文化庁は、地域の多様な主体と連携する目的を「博物館の現場や博物館に関わる人々が意識して博物館活動に取り組める」ようにするためと説明している[3)]。

このように、両者の定義からは、近年のミュージアムにとって地域の存在が重要視されていることが明らかである。なかでもICOMは、コミュニティを単なる行政区分としての地域ではなく、同一の文化あるいは民族を共有する範囲として捉えている。なお、本稿で用いる「コミュニティ」も市町村区といった行政区分ではなく、ある一定の文化的アイデンティティや地域への帰属意識を共有している範囲を指すものとする。

ミュージアムの文脈において、「コミュニティの参加」はミュージアムを持続可能な形で社会により根付かせるために重要な要素である。中南米地域においては、地域住民の主体的な関わりを軸としたコミュニティ・ミュージアムの事例が各地でみられるため、本研究ではニカラグアおよびコスタリカを研究の対象とした。

1.2　研究の目的

本研究では、中米地域に位置するニカラグアとコスタリカのコミュニティ・ミュージアムを比較検討することで、「コミュニティの参加」を可能にしている要素や条件を明らかにすることが目的である。両国の政治体制や経済状況は異なるものの、コミュニティ・ミュージアムにおける「コミュニティの参加」が実現されている点に着目し、その背景にある要因を検討する。

つまり、「コミュニティの参加」を可能にする要素や条件を明らかにすることができれば、中米地域のみならず日本においても、地域住民が主体となったミュージアムによる地域課題の解決という博物館の新たな役割を提示できる可能性があると考えた。

本論では、はじめにニカラグアを取り上げ、文献調査および筆者が2023年に実施したアンケート調査から、国内のコミュニティ・ミュージアムの特徴と「コミュニティの参加」の実現に重要と考えられる要素について考察した。

次に取り上げるコスタリカについては、2025年9月に筆者が現地で収集した資料や聞き取り調査の結果から、国内のコミュニティ・ミュージアムの成り立ちを整理することと、コスタリカ南部に所在するクレ（Curré）コミュニティにあるコミュニティ・ミュージアムの事例から「コミュニティの参加」に関する考察を行った。

2　ミュージアムと「コミュニティの参加」について

ミュージアムが地域づくりの手法として語られる場面は少なくない。エコミュージアムを例に

挙げると、日本でも地域づくりの一環として様々な地域で取り組まれている[4]。エコミュージアムとは、1960年代のフランスにおいてICOMの初代事務局長であるジョルジュ・アンリ・リヴェールによって提唱された概念である。これは、「地域を一つの博物館と見なすことによって成り立つ新しい博物館」を指し、資料の収集や保存、展示、教育普及といった事業を地域住民の参加と協力を得ながら展開させ、その地域社会の発展に寄与することを目的とする（馬場 2022：93）。

また、日本発の概念としては、伊藤寿朗が提唱した地域博物館が挙げられる。伊藤は、「自然、考古、民族など、学問分野別の研究成果を地域にあてはめるのではなく、地域のさまざまな課題を軸として、必要なものを構成し総合化するなかで新しい価値を発見していく視点」を地域博物館に反映し、博物館の領域で市民自治の原則[5]を育成し、それを支えていくことこそが地域博物館の役割であると主張した（伊藤 1993：14-15）。

このように、地域づくりの文脈で語られるミュージアムは、地域や地域住民の課題を解決するための一手段として用いられ、その活用においては住民の主体的な参加があることが前提とされている。

つまり、ミュージアムへの参加者を「資料を鑑賞する存在」のみに留めるのではなく、「自らをとりまく環境、ないしは自らが抱える課題の発見と解決のために資料を用いる主体」として捉えていると筆者は考える。そして、ミュージアムを活用した地域づくりとは、ミュージアムが所在する地域に根差した資料を、その地域に暮らす人々が自らの地域課題の解決に用いる試みそのものであるといえる。

本研究で着目するコミュニティ・ミュージアムは、「コミュニティによって創設されるコミュニティ“の”ミュージアム」とされ、「コミュニティの“ために”外部から作られ、与えられたミュージアムではない」とされる（Morales et al 2009：15）。また、「地域住民や地域社会の課題を解決すべく地域住民が主体となって運営する博物館」がコミュニティ・ミュージアムであると定義される（深谷ほか 2020：195）。そして、コミュニティ・ミュージアムの展示そのものも住民自身が決定し、自らが持つニーズの分析と、そのニーズに基づいた組織化を推し進めることでコミュニティが抱えている課題に対して解決策を模索する場であるともされる（Sobalbarro and Hamed 2019：270）。これと同時に、アイデンティティの救出および再生や考古遺産の保護を担っている（Sobalbarro and Hamed 2019：266）。

すなわち、地域住民らがコミュニティに存在するコミュニティ・ミュージアムを自分たち自身のものであると感じられることと、その運営や活用に際して地域住民らが主体的にコミュニティ・ミュージアムへ参加していることが重要といえる。また、コミュニティ・ミュージアムの役割としては、地域課題の解決とアイデンティティの救出および再生、考古遺跡の保護が主なものとしてあげられる。

これらを踏まえて、本研究では「コミュニティのために創設され、コミュニティの住民がその創設過程や運営に携わり、そこで実践される活動に参加し、地域課題の解決に働きかけるミュージアム」をコミュニティ・ミュージアムとする。

3　ニカラグアにおけるコミュニティ・ミュージアム

3.1　ニカラグアの政治体制について

ここからは、ニカラグア政府のこれまでの動向を整理したい。ニカラグアは、約 13 万平方キロメートルの国土に約 695 万の国民を有する国家である [6]。

ニカラグアの政治体制について特筆すべき点は、ソモサ一家による独裁政権を経験したことであり、1936 年に始まって以降、43 年に渡って維持された。この期間は、国内の階級分化が先鋭化し、国家の政治が少数の支配層に私物化された（松久 1994：276）。独裁から 25 年が経過した 1961 年には、政治的・軍事的な攻勢の中心となるサンディニスタ民族解放戦線（Frente Sandinista Liberación Nacional、以下 FSLN）が結成され、労働者や学生、農民、教会や中産階級までもが反ソモサ色を強めるようになった。

この独裁体制に終止符が打たれるきっかけとなった出来事が 1979 年 6 月の FSLN による臨時政府の樹立（ニカラグア革命）であり、その主導者こそが現大統領のダニエル・オルテガであった。こうして成立した新政権は民族再建政府と改称され、現大統領のダニエル・オルテガを含んだ 5 名からなる最高評議会を中軸にして運営された。1979 年に起こったニカラグア革命から親米保守派のビオレタ・チャモロが当選する 1990 年までの約 10 年間は、この民族再建政府が政権を維持した。

1990 年から 2006 年までは新自由主義政権が樹立し、その後の 2007 年から現在に至るまではダニエル・オルテガが再び政権を握る。2001 年の大統領選挙の実施にあたっては、有力な野党候補者が国家警察によって逮捕されるという出来事があり、最終的には 5 名の野党候補者が残ったが、これは「多党制による自由競争選挙」の見せかけであったとされる。この他にも、オルテガ政権は、政権に対する抵抗勢力を取り締まる条文を追加した選挙法の改正を実施した（浜端 2022：51）。

また、2018 年 11 月末からはニカラグア内務省が国内で活動する NGO 団体の法人格を取り消し、警察による事務所の強制捜査や資産の接収を開始した [7]。最初に法人格を剥奪された NGO 団体は、公共政策戦略研究所（IEEPP）、民主主義を創ろう（HD）、ニカラグア人権センター（Cenidh）、開発・民主主義研究所（IPADE）などの計 9 団体であり [8]、市民社会による政治的な活動の抑制を図ったとの見方ができる。

2018 年以前の第二次オルテガ政権は、国内企業家諸団体やカトリック教会、米国と良好な関係を築いていたが、現在では「独裁政権」と国内外からの批判を浴びている（浜端 2022：54）。革命政権によって独裁政権を終わらせた歴史的背景を持つニカラグアの現在は、野党の存在を認めつつも実際には一党独裁の体制をとるなど、再び独裁政権へと歩を進めた。

3.2　文化政策とコミュニティ・ミュージアム

こうした歴史的背景のあるニカラグアでコミュニティ・ミュージアムに強く関係しているのは、現政権による文化政策と市民団体であるニカラグア・コミュニティ・ミュージアム・ネットワーク（Red de Museos Comunitarios de Nicaragua、以下ニカラグア・ネットワーク）である。

ニカラグア文化庁は国内のコミュニティ・ミュージアムを 12 館としている [9] 一方で、ニカラグア・ネットワークは 9 館（うち、創設中が 2 館 [10]）としている（López and Sobalbarro 2016：316）。また、両者が提示するコミュニティ・ミュージアムは一館も共通しておらず、文化庁が提

示するコミュニティ・ミュージアムは首都マナグアの周辺に多く所在する反面、ニカラグア・ネットワークが提示するコミュニティ・ミュージアムはカリブ海側の自治区にも存在しているという違いがある。つまり、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムには、政治上の線分けが反映されているといえる。

ここからは、国の文化政策としてのコミュニティ・ミュージアムについて整理する。国内のコミュニティ・ミュージアムの先駆けは、1982年にカモアパと呼ばれるコミュニティに創設されたミュージアムとされる。これは、ダニエル・オルテガが政権を握ることとなるニカラグア革命後に推進された教育的な要素を持つミュージアムのプロジェクトに起因している（Instituto Nicaragüense de Cultura and Consejo Nacional de Museos 2016：2）。

ダニエル・オルテガが再当選した2006年には、ニカラグア政府とメディアの関係を管理すること、および文化的な市民性の形成を促進する政策の策定を目的として、「コミュニケーション・シティズンシップ審議会」（Consejo de Comunicación y Ciudadanía、以下CCC）が組織された（永倉 2021：96）。このCCCが策定する2012年から2016年版の「国家人間開発計画」（Plan Nacional de Desarrollo Humano、以下PNDH）において、その文化政策の項目内でコミュニティ・ミュージアムに関する記述が確認できた[11]。

ここで着目すべきは、コミュニティ・ミュージアムの目的の一つに「国民としてのアイデンティティの形成」が掲げられている点と、ニカラグア文化庁がホームページ上で公開する国内のコミュニティ・ミュージアムの多くが首都マナグアの周辺に創設されている[12]点である。

つまり、第二次オルテガ政権以降では、コミュニティ・ミュージアムに対して国民のアイデンティティの形成と文化の保護や管理という役割を担わせると同時に、その活用に政治的な意味合いを色濃く含めているといえる。

首都圏周辺にコミュニティ・ミュージアムが多い点に関しては、政府が首都圏に住まう人々を「政権の基盤を揺るがし得る存在」として重要視、あるいは危険視している姿勢が反映されているのではないだろうか。これは、現大統領であるダニエル・オルテガがかつての独裁政権を自らの手で革命を起こして覆したという事実に基づいた考察である。

次に、市民団体であるニカラグア・ネットワークのコミュニティ・ミュージアムの捉え方を整理する。まず、ニカラグア・ネットワークは2000年に結成されたコミュニティ・ミュージアム・アメリカ大陸連合（Red de Museos Comunitarios de América、以下アメリカ大陸連合）の一員である。この連合のミッションは、「アメリカ大陸内のコミュニティが、祖先の価値観に基づいた社会変革への道のりを構築すべく、コミュニティ・ミュージアムを通じたアイデンティティと自治権、民族自決権の強化を援助すること」である[13]。

2013年に結成されたニカラグア・ネットワークは、ニカラグア国内の考古遺跡や歴史遺跡、文化遺産の保護と保存のためにコミュニティ・ミュージアムを管理および促進することを目標に掲げている。なお、その活動に際しては、様々な社会セクターや組織、博物館、大学、地方自治体政府と会議の場を持つ[14]。

アメリカ大陸連合が2016年に公開した「ニカラグア・コミュニティ・ミュージアム・ネットワークの記憶」[15]では、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムはコミュニティの声に耳を傾けながら段階的な発展を遂げてきたことが記されている（López and Sobalbarro 2016）。つまり、ニカラグア・ネットワークによる国内のコミュニティ・ミュージアムは「コミュニティの参加」と共

に発展してきたといえる。

また、ニカラグア・ネットワークもコミュニティ・ミュージアムの役割の一つとしてアイデンティティの強化を掲げているが、彼らが用いる「アイデンティティ」とは「植民地主義的な均質化によって影が薄れたコミュニティの集合的なアイデンティティ」である（López and Sobalbarro 2016：316）。ニカラグア・ネットワークのような市民団体が「コミュニティ（の一員として）のアイデンティティ」や自己決定権を強化する一手段としてコミュニティ・ミュージアムを捉え、実践している点は、独裁的な政治体制の国において重要な意味を持つと考える。

最後に、文化政策とニカラグア・ネットワークの両者がコミュニティ・ミュージアムを通じて形成しようとする「アイデンティティ」が異なっているという特徴から、国内のコミュニティ・ミュージアムについて考察する。まず､ニカラグア･ネットワークが示す「コミュニティ（の一員）としての」アイデンティティが「過去に植民地勢力による支配を受けてコミュニティが均質化した」という文脈で語られていることから、当時のコミュニティの歴史や人々の記憶を、コミュニティ・ミュージアムを通して現在のコミュニティに住まう人々に取り戻そうと試みていることが窺える。一方で、独裁的であるという評価を受けているニカラグアの現政権は､「ニカラグア国民としての」アイデンティティを確立することをコミュニティ・ミュージアムの目的としている。ここには、ニカラグアのこれまでの歴史的背景を踏まえると、国民の社会に対する働きかけを抑制しようとする意識が働いていると筆者は考える。

このように、コミュニティ・ミュージアムの目的に違いがある一方で、現政権と市民団体であるニカラグア・ネットワークの関係性は良好であるといえる。在ニカラグア日本大使館の発表にもあるように、2023 年 11 月末時点で計 3,389 の NGO 団体が法人格を剥奪されている[16)]。それにも関わらず、現政権はニカラグア・ネットワークの活動を容認している点から、その関係性の良好さが見て取れる。

これらのことから、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムは、国の文化政策によるコミュニティ・ミュージアムと市民団体によるコミュニティ・ミュージアムに厳密な線引きがされている訳ではなく、両者の目的が共存しながら実際の活動が行われていることがいえる。実際に、国内のコミュニティ・ミュージアムの成立は、新博物館学などの理論に基づいて出発した一方で、コミュニティの働きかけから生まれたものもあり、その時々の文化政策に基づく形で多様な機能を担ってきたとされる（Ramos 2025：52）。

3.3　ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムの実態

ここからは、筆者が 2023 年に実施した国内のコミュニティ・ミュージアム従事者を対象としたアンケート調査の回答を用いて「コミュニティの参加」の視点からニカラグアのコミュニティ・ミュージアムについて考察する。

本アンケート調査は、2023 年 9 月 18 日から 9 月 30 日の回答期間を設けて Google フォームを利用して実施した。この調査を実現するにあたって、ニカラグア文化庁博物館群ディレクターとニカラグア･ネットワークの代表から協力を得た。筆者が事前に作成したアンケート調査のフォーマットのリンクをニカラグア国内のコミュニティ・ミュージアムが参加する SNS のグループチャット上に拡散してもらった。なお、9 名のコミュニティ・ミュージアム従事者が回答した。

また、マサヤ県のコミュニティ・ミュージアムの館長に対しては、対面形式でインタビューを

実施した。インタビューの内容はアンケート調査時に使用したフォーマットに記載したものと同じため、構造化インタビューである。異なる調査方法ではあるが同一の調査項目を持つことから、このインタビューを含めて2023年実施のアンケート調査の回答者数を合計で10名とする。

回答者の所属はマサヤ県（3館）、ヌエバ・セゴビア県、チョンタレス県、グラナダ県、マドリス県、レオン県、マナグア県、北カリブ自治区にあるコミュニティ・ミュージアムであったため、ニカラグア国内のコミュニティ・ミュージアムから広く回答を得ることができた。また、アンケートに回答した10名が所属するコミュニティ・ミュージアムのうち、ポケットマネーを運営資金とするものが1館あった。

アンケートの設問は「コミュニティ・ミュージアムの運営について」（5問）、「コミュニティ・ミュージアムと学校の連携について」（2問）、「コミュニティ・ミュージアムの活動について」（8問）の三つに分類でき、合計で15の設問から成る。なお、本稿では全ての回答は扱わない。

まず、コミュニティ・ミュージアムとコミュニティ内の学校との連携の有無およびその連携内容についての設問では、全回答者がコミュニティ内の学校と関係を持っていると回答した。具体的には、学校に対してガイドツアーや文化遺産や環境をテーマとしたアクティビティなどのワークショップを提供している。こうしたワークショップでは、コミュニティの文化遺産や手工芸品、歴史、考古学、ダンスなどといったテーマが扱われている。最も多いテーマは、芸術に関するものであり、次いで歴史や文学、文化、環境が多い。

この回答から、コミュニティ内の学校の生徒を含めたワークショップへの参加者は、そのワークショップを通してコミュニティに関する知見を蓄えることが可能であることがいえる。

表1　コミュニティ内の学校と「コミュニティ・ミュージアム」の関係性

	コミュニティ内の学校と関係を持っているか
1	有（しかし、かなり疎遠）
2	有（親密な関係性）
3	有（教育省と良好な関係性）
4	有（年間計画内の文化芸能活動へ参加）
5	有（かなり良い）
6	有（とても親密）
7	有（レクリエーションや文化的なアニメ、文化遺産や環境をテーマとしたアクティビティを実施して関係を維持）
8	有（とても良好）
9	有（生徒らを対象にガイドツアーを実施）
10	有（開館以来、20年に渡って互いに学び合っている）

表2　コミュニティ・ミュージアムが実施するワークショップの内容

	ワークショップの内容はどのようなものか
1	手工芸、絵画、アート、詩
2	文化財、モニュメントや歴史的な場所、観光地の見学
3	博物館、考古学、歴史的遺産、伝統的な場所、詩、文学、ダンス
4	演劇、音楽、絵画、歴史的遺産、伝統的な場所、詩、文学、ダンス
5	デッサン、リサイクル、手工芸、Cartillas de Familias
6	考古学、歴史
7	アート（音楽、演劇、絵画）の技術面、環境意識、文化財保護、コミュニティのリーダーと連携したリスク管理に関する内容のもの
8	ダンス、レクリエーション、伝統的な遊びなど（図書館や文化施設と共同で実施）
9	文学、アート、演劇（子ども向け）、手工芸職人への研修
10	運営陣による3言語対応（スペイン語、ミスキート語、英語）の準備

次に、各々のコミュニティ・ミュージアムの日常的な活動内容についての設問では、ミュージアムのガイドツアーを実施することやコミュニティ内で祝われる記念日に関する視聴覚資料を準備すること、教材を開発することなどといった回答があり、コミュニティ・ミュージアム（のスタッフ）が来館者と共にコミュニティに関する知識を日常的に深めているといえる。

また、コミュニティ・ミュージアムがコミュニティへもたらした変化や影響については、コミュニティ・ミュージアムの存在によって地域経済が豊かになったことや、コミュニティ・ミュージアムの展示内容やそれを用いたワークショップなどを通して地域固有の文化を教育へ還元していることなど、肯定的な変化がコミュニティ内に現れていることが明らかとなった。

このアンケート調査の結果から、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムにおける「コミュニティの参加」にとって重要な要素は、「コミュニティ内の学校との連携」と「コミュニティの歴史や文化に関連したワークショップの実施および参加」であると推測する。

前者に関しては、全ての回答者が自身のコミュニティ・ミュージアムと地域内の学校が結びつきを持っていると回答した。学校の生徒たちは、授業内外でコミュニティ・ミュージアムを訪れ、コミュニティ内の歴史や文化などをテーマとしたワークショップに参加しており、子どものうちから自然とコミュニティ・ミュージアムに触れている。

後者については、コミュニティの住民が自身のコミュニティの歴史や文化に触れることで、続く表4の問いに対する回答から、コミュニティに対して興味や愛着が深まっている様子が窺える。

表3 「コミュニティ・ミュージアム」の日常の活動内容

	コミュニティ・ミュージアムではどのような一日を過ごしているか
1	提案のひとつは、朝食を提供する小さなカフェを開くこと。このコミュニティ・ミュージアムは毎日午後5時まで開館している。
2	午前8時に開館し、午後5時半に閉館する。興味深いビデオを投影したり、来館者に注意を払ったり、文化遺産のワークショップのような予定されたアクティビティを展開したり、ガイドツアーを行ったり、アートの寄贈キャンペーン・プロモーションをする。
3	この博物館を解錠し、各展示室を開館前に管理する。その後、来館者対応を行う。アクティビティは多種多様で毎日同じものを実施しているわけではない。私たちで計画している。その日にアクティビティがある場合は、前日に私たちで全て準備する。月末の最後の3日間は、報告書や計画の作成のオペレーションに従事する。他にもいろいろとある中で、来館者には常に注意を払う。
4	コミュニティ・ミュージアムがあるだけでなく、博物館のさまざまな部屋のツアー、部屋と収蔵品の掃除、来館者対応、収入と統計の登録・集計、エリアの管理、報告書の作成、施設訪問の計画作成（を行う。）
5	午前中はいつも外回りの清掃と同じくらい室内の清掃をする。国内外の観光客に細心の注意を払うため、どこも清潔であること、すべてが整っていること、それらの秩序が保たれていることを確認する。午後はいつも同じで、実施したアクティビティと次回のアクティビティを評価する。
6	午前8時に開館し、清掃する。もし来館者があるならば、材料（教材）の開発を準備して待つ。そしてツアーに移る。その後、グループ別にクラスを展開する。
7	大概は来館者対応、遺跡の保存と修復、博物館と基礎構造の清掃と維持（を行う。）警備と文化的なアクティビティの実施、もしくは計画された研修のワークショップを週に一度（行う。）
8	この博物館は月曜から金曜の午前8時から午後5時半まで開いている。ツアー参加者たちには、ある特定のテーマや地元の記念日に関するいくつかの視聴覚教材が準備される。就学前の年齢のこどもたちの場合、絵に色を付けるといったような教育的なアクティビティをいくつか行う。
9	開館時間は8時から17時で、警備員は日中と夜の二交代制。通常は予約なしの一般来館者の対応をする。イベントの時は、民俗学者や伝統主義者とも会う。彼らの対応やガイドツアーの予定があるときは、10時頃に約束する。16時以降は、生徒たちとの研修や雑談、対話の時間にあてる。生徒たちは17時に帰るので、講義や雑談をする1時間前にはここに連れてくる。
10	この博物館は、月曜から土曜の午前8時から午後6時まで開館する。予定された来館、もしくは予定よりも早い来館も受け付ける。この博物館のオーナーである私と私の母、私の姉（妹）の3人で来館者対応を行う。この博物館は家族経営の私立で、この自治体では唯一の博物館。特別なケースでは、日曜日も受け入れる。

表 4　コミュニティ・ミュージアムがコミュニティにもたらした変化や影響

	コミュニティ・ミュージアムがコミュニティへどのような変化や影響をもたらしたか
1	ポジティブなもので、コミュニティと良い関係を築いている。
2	自治体の歴史的な記憶の充実。博物館を訪問する、手入れする文化が促進された。 住民たちはこの空間に一体感を感じている。
3	住民たちは、この自治体の一般的な文化を知ることや実施されるアクティビティへ参加することにより興味をもつようになった。 また、寄贈による作品の収集や文化遺産の防護や保護に対する住民のより一層の信頼もある。
4	私たちの地域文化の理解と救出。その認識と所有権。
5	変化は、コミュニティが今現在、大変良い評判を得るようになったこと。 コミュニティの大衆的な商売において、ポジティブな影響を生む。
6	この自治体の歴史や文化、祖先の伝統に関する質の高い知識を持つようになった。
7	文化的な側面に加えて社会や観光の側面を巻き込むプロジェクトが実施された。 25の家がある新しい地区がつくられ、街灯のシステムが向上し、湖岸に防波堤がつくられ、 サービス・プロバイダーに資格が与えられ、18のマイクロ法人の事業計画に資金が調達された。 更に、その場所では、地元の26人の労働者が雇用されている。
8	地元の歴史遺産に対する評価。
9	この博物館は、以前にはなかった歴史的な記憶、伝統といった文化的な価値を彷彿とさせる場所になった。 開館から15年の発展期間を経て、人々はこの博物館を自分のものとして認識している。 また、文化施設（Casa de Cultura）のようにも機能している。私たちは、コミュニティの芸術家、手工芸職人、 画家、音楽家、演劇役者、大衆演劇、大道芸人といった広い範囲と接触している。 私たちは方法論を持っていないが、コミュニティのニーズに基づいて活動している。 仮面製造の向上をどうサポートするのかという研修に参加し、詩人が出版できるようなプログラムを作成した。 文化と伝統を活性化し、コミュニティに技術的、経済的、制度的なサポートを促進してきた。 何よりも大切なことはミュージアムとコミュニティの関係性であり、コミュニティはミュージアムの中で生きている。 「国家人間開発計画」内のモデルによって、コミュニティと接触する以上にコミュニティを変化、変容させることはないと理解するようになった。2018年の出来事で他の博物館は破壊されたが、人々はこの博物館の破壊を許さなかった。ここは、私たちにとって機関レベルの成功だ。
10	20年間で多くの人が知り、学んだ。この博物館は、私たちの文化の多様なテーマを教える大学のようだ。 ここでは、触れられる作品だけでなく、触れられない作品、文書、冊子、ミスキート語の辞書も所有しているので、人々の研究、疑問、知的向上心にも協力するといったような図書館のようでもある。 多くの人と共にあり、たくさんのことを教え続ける博物館であり、図書館であるといえる。

3.4　小括

本章では、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムの特徴と「コミュニティの参加」について考察をおこなった。はじめに、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムの特徴を文献の整理により明らかにした。

ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムは、国の文化政策によるものと市民団体によるものという設置主体によって形成したいアイデンティティに差異が生じている。具体的には、前者は「国民としてのアイデンティティの形成」を役割の一つとして主張し、後者は「コミュニティ（の一員）としてのアイデンティティの形成」を主張している。しかし、両者のコミュニティ・ミュージアムには厳密な線引きがある訳ではなく、実際には二つのアイデンティティの形成という目的が共存しながら活動が展開されている点が特徴といえる。

次に、2023年に実施した国内のコミュニティ・ミュージアム従事者を対象としたアンケート調査から、コミュニティ・ミュージアムにおける「コミュニティの参加」にとって重要な要素が「コミュニティ内の学校との連携」と「コミュニティの歴史や文化に関連したワークショップの実施および参加」であると考察した。回答した10館全てがコミュニティ内の学校と繋がりを持ち、コミュニティに関する歴史や文化、伝統などを対象としたワークショップを実施し、そこに生徒たちが参加している。特に自由記述の回答では、コミュニティ・ミュージアムがコミュニティにもたらした変化として、地域文化の理解や知識の向上、コミュニティ・ミュージアムへの関心の向上などが挙げられ、コミュニティ・ミュージアムが実施するワークショップを通じてコミュニティに対する愛着が来館者である地域住民に芽生えている様子が窺えた。

しかしながら、「コミュニティの参加」を実現している要素を考察した今回のアンケート調査は、コミュニティ・ミュージアム従事者からの回答のみであるため、今後はコミュニティ・ミュージアムの利用者に対する調査を実施することを課題とする。また、コミュニティ・ミュージアムが設置主体によって異なるアイデンティティの形成を目的に据えていることから、両者のアイデンティティと「コミュニティの参加」についての分析も課題とする。

4　コスタリカにおけるコミュニティ・ミュージアム

4.1　国内における博物館の全体像とコミュニティ・ミュージアム

本節では、コスタリカ国内のコミュニティ・ミュージアムを含んだ博物館の現状を整理する。ニカラグアと隣接しているコスタリカは、約5万平方キロメートルの国土を有し、約521万の国民が暮らしている国である[17]。

国内のコミュニティ・ミュージアムに対して技術的支援を行っているのは、文化・青年省（Ministerio de Cultura y Juventud）の独立部門であるコスタリカ国立博物館[18]内に設置される「リージョナルおよびコミュニティ・ミュージアム・プログラム」（Programa de Museos Regionales y Comunitarios、以下PMRC）である。コスタリカ国立博物館は、国内で新たに生まれる博物館プロジェクトに対して、その質と健全な発展を保証する責任機関となっており、前述のPMRCを通じてICOMの博物館の概念が適用される博物館を推進する取り組みを進めている[19]。

文化・青年省の成り立ちについては、1970年代に設立された文化・青年・スポーツ省（Ministerio de Ccltura, Juventud y Deportes）をその前身とし、当時のコスタリカ国内において観光資源の開発の必要性が向上していたという背景から、国内の文化機関の再編や調整を担う目的で設立された。

1970年以降のコスタリカは、文化を通じて国家アイデンティティを構築するのみでなく、国内外の人々にとってアクセスしやすく、また、国の歴史が反映された文化プログラムを作成することを目下の目標としていた。

そして、1983年にはリージョナル・ミュージアム（地域博物館）の創設を促進する目的で博物館総局が設立され、この総局は2000年まで存続した[20]。博物館総局が設立された80年代から90年代にかけては、コスタリカ国内で博物館設立への関心が急増していたが、大多数の博物館が明確な目標や目的、方針を欠いていたこと、また資金不足や計画不足が原因となり、多くの博物館

がすぐに閉館となった[21]。

こうした流れのなか、2000年1月には、国内の博物館の運営に対してコスタリカ国立博物館が責任を持つこととなり、2004年には前述の博物館総局の役割を引き継いだPMRCが創設された。

PMRCは、国内の博物館の設立を促進・支援するという目標を持ち、コスタリカ国立博物館が定めた指針に沿って、国内のリージョナル・ミュージアムおよびコミュニティ・ミュージアムの創設とフォローアップのためにミュージアムのガイドラインを定めること、農村部および都市部の地域社会が自らの文化についての調査・保存・普及に参加できるよう促進すること、リージョナルおよびコミュニティ・ミュージアムの開発に協力すること、その創設や発展においてアドバイスや技術的支援を提供することを目的としている[22]。

ここでPMRCが対象としている「リージョナル・ミュージアム」（Museo Regional）と「コミュニティ・ミュージアム」（Museo Comunitario）について、その違いを整理したい。PMRCは、「博物館的空間」（Espacio Museístico）に包括されるいくつかの空間について、コスタリカ国立博物館が出版する『博物館的空間とは何か』（“¿Qué es un espacio museístico?”）のなかで定義している。前提として、ミュージアムとは法人格の有無に関わらず一定の組織と構造を持ち、時間を超えて存続できる存在であり、一般に公開され、運営が非営利であるものとされる。なお、ここでいう非営利とは、持続可能性を保つための資金を生み出すことができないという意味ではなく、社会に奉仕し、有形・無形の遺産を管理する組織のことを指す（Museo Nacional de Costa Rica, 以下MNCRと略す , 2020：8-9）。

はじめに、ミュージアムは、人類学博物館、コミュニティ・ミュージアム、美術館、エコミュージアム、歴史博物館、遺跡博物館、社会博物館（Museo de Sociedad）、機関博物館（Museo Institucional）、国立博物館、リージョナル・ミュージアム、バーチャルミュージアム、生きた博物館（ライブ・ミュージアム、Museo Vivo）に細分化されており、コスタリカにおいてもコミュニティ・ミュージアムが博物館の一形態として位置づけられている（MNCR 2020：24）。

次に、「コミュニティ・ミュージアム」（Museo Comunitario）と「リージョナル・ミュージアム」（Museo Regional）の違いに関して、前者は各々のコミュニティの遺産、歴史、人物の掘り起こしと継承、価値向上に焦点を当てているミュージアムであり、コミュニティのアイデンティティにとって重要な役割を果たし、その地域に関連する体験や伝統、もの、建物、写真などを収集するとされる（MNCR 2020：36）。後者については、基本的には大学が財政面を含めた支援を行っていて、コミュニティ・ミュージアムよりも専門性の高い内容を扱っており、この点が両者の違いとされる[23]。また、コミュニティ・ミュージアムはコミュニティの観光を第一の目的としているものではなく、コミュニティから発生するものとされる[24]。

このように、コスタリカにおいてはコスタリカ国立博物館がコミュニティ・ミュージアムを含む博物館を明確に定義したうえで、主体となって管理しているといえる。

これと同時に、筆者が2025年9月12日に実施したPMRCの職員に対する聞き取り調査では、国内のコミュニティ・ミュージアムにとって主体となるPMRCが予算や人材などの資源不足に直面している現状に反して、コミュニティ・ミュージアムとして活動を続けている館が国内に存在していることが明らかとなった[25]。そのコミュニティ・ミュージアムは財政的支援を受けておらず、手工芸品を販売するなどの方法で自主的に運営を続けているとのことである。

つまり、安定した運営資金の有無のみがコミュニティ・ミュージアムの持続性を左右している

のではなく、持続的なコミュニティ・ミュージアム（の活動）にとって重要なことは、何らかの形での地域住民の主体的な参加といえる。そして、これがひいては「コミュニティの参加」に繋がると筆者は考える。

4.2　クレ（Curré）での事例について

次に、実際にコスタリカ南部に存在するクレ（Curré）にあるクレ・コミュニティ・ミュージアム（Museo Comunitario de Curré）の事例を「コミュニティの参加」の視点から考察する。なお、当コミュニティ・ミュージアムは2025年9月時点で休館中である。

クレは、コスタリカの西から南西にかけて広がるプンタレナス県に位置し、プンタレナス南部のほぼ中央に所在するコミュニティである。そこでは、約3500年前から人々の定住の痕跡がある（Corrales and Rojas 2021：13）。

1980年代からは、コスタリカ国立博物館が先住民の遺跡の理解と再評価のために当コミュニティと協働関係にある。また、水力発電プロジェクトがコミュニティ内において実施されようとした際は、長期に渡る定住の証拠を示していた考古学情報を根拠として、地域住民らが自らの先祖の土地に居住し続ける権利を主張した出来事がある（Corrales and Rojas 2021：81）。

1988年からは、コミュニティの中心にある「インバの家」と呼ばれるかつての教師の家で、地域の歴史や伝統をテーマとした企画展示が行われた。この家は後に解体されることになるが、これがPMRCとコミュニティが協働で進めてきたクレ・コミュニティ・ミュージアムの前身となった。その後、2013年にクレ・コミュニティ・ミュージアムが創設され、2015年から開館している。展示内容については、地域住民が作成し、先コロンブス期から現在に至るまでのコミュニティの歴史を紹介している（Corrales and Rojas 2021：82）。また、当コミュニティ・ミュージアムはコミュニティ内の学校の敷地内に設置されている。

このように、地域の学校の存在や展示内容がコミュニティの歴史を扱っている点など、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアム従事者に対するアンケート調査結果から考察した「コミュニティの参加」に必要と考えられる要素をクレ・コミュニティ・ミュージアムも備えているといえる。

また、このコミュニティの地域住民らは、水力発電プロジェクトに対して自身の土地への居住権を主張したという経験を基に、コミュニティの一員としてコミュニティ内の活動に主体的に参加する基盤がコミュニティ・ミュージアムの設置よりも以前から備わっていたことが推測できる。

クレ・コミュニティ・ミュージアムの事例から、コミュニティ・ミュージアムにおける「コミュニティの参加」には「コミュニティ内の学校との連携」と「コミュニティの歴史や文化に関する展示内容」が重要であることが窺える。なお、当コミュニティ・ミュージアムに関しては、従事者や利用者を対象とした調査は未実施であるため、今後の課題とする。

5　まとめ

5.1　結論

本稿では、ニカラグアとコスタリカの「コミュニティ・ミュージアム」について、文献調査とアンケート調査、インタビュー調査の結果から、政治体制や経済状況の違いがあってもなお、「コミュニティの参加」によって持続的に活動が展開されていることが明らかとなった。

「コミュニティの参加」を実現している要素として、「コミュニティ内の学校との連携」および「コミュニティの歴史や文化をテーマとした展示やワークショップ」、「地域住民による主体的な活動の有無」が重要であると考察した。

ニカラグアについては、国の文化政策は「国民としてのアイデンティティの形成」をコミュニティ・ミュージアムの目的とする一方で、市民団体であるニカラグア・ネットワークはコミュニティ・ミュージアムを通して「コミュニティ（の一員）としてのアイデンティティ」の形成を目的に据えているといった差異があることと、両者の目的が共存しながら実際の活動が行われていることを国内のコミュニティ・ミュージアムの特徴として指摘した。

また、ニカラグア国内のコミュニティ・ミュージアム従事者へのアンケート調査からは、コミュニティ内の学校との関係性や、コミュニティ・ミュージアムがコミュニティ固有の内容をワークショップで扱っていることが「コミュニティの参加」にとって重要な要素であることを指摘した。

コスタリカについては、博物館を取り巻く歴史的変遷を整理することで、現在の国内のコミュニティ・ミュージアムに対して PMRC が重要な位置づけにあることを明らかにした。

これと同時に、PMRC が資金的・人的資源不足に直面している一方で国内のコミュニティ・ミュージアムが手工芸品の販売等を行って自主的に運営費用を捻出している事例からは、安定した運営資金の有無のみがコミュニティ・ミュージアムの持続性を左右しているのではなく、持続的なコミュニティ・ミュージアム（の活動）にとって、何らかの形での地域住民の主体的な参加が重要であることがいえる。そして、これがひいては「コミュニティの参加」に繋がると筆者は考える。

また、地域住民が運営や展示を行っているクレ・コミュニティ・ミュージアムの事例から、「地域との学校との関係性」と「コミュニティの歴史を扱う展示内容」といった要素が「コミュニティの参加」にとって重要であると考察した。

これらを踏まえて、コミュニティ・ミュージアムへの「コミュニティの参加」にとって重要と考えられる要素は、「地域の学校との連携」と「コミュニティの歴史や文化を扱う展示およびワークショップの実施」、そして「地域住民の主体的な活動の有無」であるといえる。

5.2　今後の展望

本研究で対象としているニカラグアとコスタリカは、政治面や経済面に差異がある。例えばニカラグアの政治体制は権威主義的である一方、コスタリカは民主主義体制をとる。また、コミュニティ・ミュージアムに関わる点では、ニカラグアでは国の政策として実施されているが、コスタリカではコスタリカ国立博物館の PMRC が主体となっているといった差異がある。

こうした差異があっても、両国では「コミュニティの参加」を根幹に据えたコミュニティ・ミュージアムが展開されていることから、コミュニティ・ミュージアムにおける「コミュニティの参加」を可能にする要素や条件を明らかにすることで、中南米に限らずどの国や地域においてもコミュニティが主体となったミュージアムによる地域課題の解決を可能になると考える。つまり、本研究の意義は、このような博物館の新たな役割を提示できる点にある。

本稿では、ニカラグアのコミュニティ・ミュージアムについては、国内の 10 館のコミュニティ・ミュージアム従事者へアンケート調査を実施することで「コミュニティの参加」にとって重要な要素が「コミュニティ内の学校との連携」と「コミュニティの歴史や文化をテーマとした展示お

よびワークショップ」であることを考察したが、この要素がなぜ必要なのかという視点での分析は未着手である。また、コスタリカについては文献調査のみである。

したがって、ニカラグアおよびコスタリカのコミュニティ・ミュージアムについて、従事者および利用者、特に生徒を含む学校関係者への調査を実施することで、「コミュニティの参加」に必要不可欠な要素を検討したい。

また、コスタリカのコミュニティ・ミュージアムについては地域住民が主体的に運営費用を捻出する事例を取り上げたが、ニカラグアのように運営資金の出所が公の場合もコミュニティ・ミュージアムは持続されている。そのため、運営資金という視点から分析を行うことも今後の課題である。

これらの分析を踏まえて、ミュージアムにおける「コミュニティの参加」を実現する要素を明らかにし、ミュージアムを通じた持続可能な地域社会づくりに貢献することが本研究の今後の展望である。

注

1）ICOM の博物館の定義の原文は “A museum is a not-for-profit, permanent institution in the service of society that researches, collects, conserves, interprets and exhibits tangible and intangible heritage. Open to the public, accessible and inclusive, museums foster diversity and sustainability. They operate and communicate ethically, professionally and with the participation of communities, offering varied experiences for education, enjoyment, reflection and knowledge sharing.” である。ICOM ホームページ「ICOM approves a new museum definition」（2025 年 11 月 14 日最終閲覧、https://icom.museum/en/news/icom-approves-a-new-museum-definition/）参照。

2）ICOMJAPAN ホームページ「新しい博物館定義、日本語訳が決定しました」（2025 年 8 月 30 日最終閲覧、https://icomjapan.org/journal/2023/01/16/p-3188/）参照。

3）文化庁ホームページ「博物館法とは」（2025 年 11 月 8 日最終閲覧、https://museum.bunka.go.jp/museum/act/）参照。

4）例えば、神奈川県平塚市では「金目まるごと博物館」を通じて地域の自然環境や歴史的遺産を活かし「後世に続くまち」の形成が試みられている。平塚市ホームページ「エコミュージアムの考え方」（2025 年 9 月 13 日最終閲覧、https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyoiku/page-c_01235.html）参照。

5）市民自治の原則は、地域で暮らす住民が主体となって地域課題を発見し、その解決に取り組んでいくことを指す（伊藤 1993：14-15）。

6）外務省ホームページ「ニカラグア共和国（Republic of Nicaragua）基礎データ」（2025 年 9 月 23 日最終閲覧、https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nicaragua/data.html）参照。

7）在ニカラグア日本大使館が発表する「ニカラグア定期報告（2023 年 11 月）」によると、2018 年 11 月から 2023 年 11 月までに、内務省によって合計で 3,389 の NGO 団体が法人格を剥奪されている。

8）在ニカラグア日本大使館ホームページ「ニカラグア定期報告（2018 年 12 月）」（2023 年 12 月 11 日取得、https://www.ni.emb-japan.go.jp/files/000438696.pdf）参照。

9）ニカラグア文化庁ホームページ「Museos y Sitios Históricos」（2025 年 9 月 23 日最終閲覧、

https://www.inc.gob.ni/museos/）参照。

10）2016 年時点。

11）例えば第 466 項では、コミュニティ・ミュージアムは、許可を得たコミュニティのグループがコミュニティ内の文化資源を管理するための場として創設するということと、実際に 6 つのコミュニティ・ミュージアムが創設されていることが記されている。UNESCO ホームページ「Plan Nacional de Desarrollo Humano 2012-2016」（2025 年 9 月 23 日最終閲覧、https://siteal.iiep.unesco.org/sites/default/files/sit_accion_files/siteal_nicaragua_0029.pdf）参照。

12）ニカラグア文化庁ホームページ「Museos y Sitios Históricos」（2025 年 9 月 23 日最終閲覧、https://www.inc.gob.ni/museos/）参照。

13）アメリカ大陸・コミュニティ・ミュージアム連合ホームページ「Red de Museos Comunitarios de América」（2025 年 9 月 23 日最終閲覧、https://www.museoscomunitarios.org/redamerica）参照。

14）アメリカ大陸・コミュニティ・ミュージアム連合ホームページ「Red de Museos Comunitarios de Nicaragua」（2025 年 9 月 23 日最終閲覧、https://www.museoscomunitarios.org/redes/paises）参照。

15）本章は「記憶－アメリカ大陸・コミュニティ・ミュージアム・連合のコミュニティ・ミュージアムと国際ネットワークの経験」（“Memoria: Red de Museos Comunitarios de América Experiencias de Museos Comunitarios y Redes Nacionales”）を構成する一章である。

16）在ニカラグア大使館ホームページ「ニカラグア定期報告（2023 年 11 月）」（2023 年 12 月 11 日取得、https://www.ni.emb-japan.go.jp/files/100592524.pdf）参照。

17）外務省ホームページ「コスタリカ共和国（Republlic of Costa Rica）基礎データ」（2025 年 9 月 23 日最終閲覧、https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/costarica/data.html）参照。

18）コスタリカ国立博物館は 1887 年のベルナルド･ソト大統領の政権下で、自然や芸術の産物を収集･分類・研究するための公共施設を国へもたらすことを目的として設立された機関である。

19）コスタリカ国立博物館ホームページ「LOS ORÍGENES DEL MUSEO NACIONAL」（2025 年 9 月 8 日最終閲覧、https://www.museocostarica.go.cr/museo/historia-del-museo/）参照。

20）コスタリカ国立博物館ホームページ「PROGRAMA DE MUSEOS REGIONALES Y COMUNITARIOS DE COSTA RICA」（2025 年 9 月 8 日最終閲覧、https://www.museocostarica.go.cr/transparencia/informacion-institucional/programa-de-museos-regionales-y-comunitarios-de-costa-rica/）参照。

21）同上。

22）同上。

23）コスタリカ国立博物館にて、2025 年 9 月 12 日に筆者が実施した PMRC の職員に対する聞き取り調査内で説明を受けた。

24）同上。

25）同上の PMRC の職員への聞き取り調査で、少なくとも 4 館のコミュニティ・ミュージアムの存在を把握することができた。

参考文献

伊藤寿朗
1993　『市民のなかの博物館』、吉川弘文館。

永倉草
2021　「ニカラグアの教育政策の変遷－政権交代による変化を中心に」、『鳴門教育大学国際教育協力研究』、第 15 号、91-98 頁。

馬場憲一
2022　「文化財政策におけるエコミュージアム的な取り組みとその課題－ウェルビーイング社会の文化享受の視点から」、『現代福祉研究』、第 22 号、91-108 頁。

浜端喬
2022　「2021 年ニカラグア総選挙」、『ラテンアメリカ・レポート』、39 巻 1 号、46-59 頁。

深谷岬・南博史・嘉幡茂・川嶋まどか
2020　「ニカラグアのカリブ海側における岩刻画の考古学調査およびコミュニティ・ミュージアム活動に向けた研究」、『京都外国語大学ラテンアメリカ研究所紀要』、第 20 号、193-214 頁。

松久玲子
1994　「ニカラグア－チャモロ政権の教育改革と成人教育」、『ラテンアメリカ研究年報』、第 14 号、254-280 頁。

Corrales, Francisco U., and Uriel Rojas Rojas
2021　*Curré/Yímba Su larga y profunda historia*. Museo Nacional Costa Rica.

Instituto Nicaragüense de Cultura and Consejo Nacional de Museos
2016　*Guía para la Creación de Museos Comunitarios*. Consejo de Comunicación y Ciudadanía.

López, Eugenio M., and Greyci Sobalbarro Pao
2016　“Memoria de la Red Nicaragüense de Museos Comunitarios”. In Cuauhtémoc Camarena Ocampo and Teresa Morales Lersch (eds.), *Memoria: Red de Museos Comunitarios de América, Experiencias de Museos Comunitarios y Redes Nacionales*. Red de Museos Comunitarios de América and Unión de Museos Comunitarios de Oaxaca, pp. 315-350.

Morales, Teresa, Cuauhtémoc Camarena, Sillvia Arze and Jennifer Shepard
2009　*Manual para la Creación y Desarrollo de Museos Comunitarios*. Fundación Interamericana de Cultura y Desarrollo (ICDF).

Museo Nacional de Costa Rica
2020　*¿Qué es un espacio museístico?*. Museo Nacional de Costa Rica.

Ramos, Herme A.
2025　“Los museos comunitarios en Nicaragua: una perspectiva desde la Nueva Museología”. *Revista Humanismo y Cambio Social* 25: 40-55.

Sobalbarro, Greyci P., and Yuri Hamed Zapata Webb
2019　“Museos Comunitarios como una Estrategia de Comunicacion Intercultural Ancestral en Nueva Guinea” *RACCS Revista Ciencia e Interculturalidad* 25 (2): 265-276.

インターネット資料

「新しい博物館定義、日本語訳が決定しました」、https://icomjapan.org/journal/2023/01/16/p-3188/（2025 年 8 月 30 日閲覧）

「博物館法とは」
https://museum.bunka.go.jp/museum/act/（2025 年 11 月 8 日閲覧）

「エコミュージアムの考え方」、https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyoiku/page-c_01235.html（2025 年 9 月 22 日閲覧）

「ニカラグア共和国（Republic of Nicaragua）基礎データ」、https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nicaragua/data.html（2025 年 9 月 23 日閲覧）

「ニカラグア定期報告（2018 年 12 月）」、https://www.ni.emb-japan.go.jp/files/000438696.pdf（2025 年 9 月 23 日閲覧）

「ニカラグア定期報告（2023 年 11 月）」、https://www.ni.emb-japan.go.jp/files/100592524.pdf（2025 年 9 月 23 日閲覧）

「コスタリカ共和国（Republic of Costa Rica）基礎データ」、https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/costarica/data.html（2025 年 9 月 23 日閲覧）

“ICOM approves a new museum definition”
https://icom.museum/en/news/icom-approves-a-new-museum-definition/ (accedido el 8 de noviembre de 2025)

“Museos y Sitios Históricos”
https://www.inc.gob.ni/museos/ (accedido el 23 de septiembre de 2025)

“Plan Nacional de Desarrollo Humano 2012-2016”
https://siteal.iiep.unesco.org/sites/default/files/sit_accion_files/siteal_nicaragua_0029.pdf (accedido el 23 de septiembre de 2025)

“Red de Museos Comunitarios de América”
https://www.museoscomunitarios.org/redamerica (accedido el 23 de septiembre de 2025)

“Red de Museos Comunitarios de Nicaragua”
https://www.museoscomunitarios.org/redes/paises (accedido el 23 de septiembre de 2025)

“LOS ORÍGENES DEL MUSEO NACIONAL”
https://www.museocostarica.go.cr/museo/historia-del-museo/ (accedido el 8 de septiembre de 2025)

“PROGRAMA DE MUSEOS REGIONALES Y COMUNITARIOS DE COSTA RICA”
https://www.museocostarica.go.cr/transparencia/informacion-institucional/programa-de-museos-regionales-y-comunitarios-de-costa-rica/ (accedido el 8 de septiembre de 2025)

ISSN 2759-0542

BOLETÍN del

Centro de Estudios Latinoamericanos
de la Universidad de Estudios Extranjeros de Kyoto

Centro de Estudos Latino-Americanos
da Universidade de Estudos Estrangeiros de Kyoto

2025

‹ARTÍCULOS›

La expansión y integracion territorial de los mexicas en el Istmo de Tehuantepec
..... Munehiro KOBAYASHI 1

A literatura nordestina do Brasil e a figura feminina resistente: através do romance *São Bernardo*, de Graciliano Ramos
..... Masayuki KIBE 23

‹ESTUDIOS PRELIMINARES›

Presentación de literatura relacionada con las relaciones interamericanas en torno a la Doctrina Monroe en el Japón de la preguerra
— De la Doctrina Monroe al Panamericanismo —
..... Toyoharu TSUJI 43

Los museos comunitarios y la política museística en Centroamérica: comparación de los casos de Nicaragua y Costa Rica
..... Asuka SUGIOKA 59

‹NOTAS DE INVESTIGACIÓN›

Daños al Patrimonio Arqueológico y su Tratamiento Sancionador: análisis del DS N°005-2019-MC
..... Hironori OTANI / José Antonio ONOFRE MAYTA 77

‹RESEÑA DE LIBROS›

American Empire: A Global History, por Anthony Gerald Hopkins (Kan Hideki, Mori Takeo, Nakajima Hiroo y Kami Hideaki tr.)
..... Takashi USHIJIMA 101

Vol. 25